

園長先生

それは 古びた木造の  
小さな 保育園

子供の頃

わたしの 手を引きながら

「ここにいるのは 可哀そうな

子供達なんだよ」と

指差し 教えた大人は

誰だったか？

それから十余年後

幼い我が娘の 手を引いて

その門を くぐった時

わたしたちは

「可哀そうな」母娘であったか？

いいえ わたしたちは

園長先生の

深い愛に 育まれ

しあわせな 母娘だったと

感謝をこめて あなたに伝えたい

少しの昔

おむすび ひとつが

この上ない ごちそうだった時代

そして

今 世の中は

飽食と 少子化の時代

けれども

「たとえ 一人でも

子供がいる限り

保育園は やめません」 と

言い切る 先生は

もうすぐ 九十歳

戦後六十年余りを

保育一筋に懸けた

あなたの 情熱

あなたの 反骨精神に

しゃんと 伸びた

その 背筋に

完敗！ 乾杯！

そして

心を込めて

「ありがとう」